



央州寺通信 四月号



菅原祐軌 ysobtportland06012017@oregonbuddhisttemple.com

「世界を変えた七歩」

みなさんは“ラッキーセブン”という言葉の由来をご存知でしょうか？一説によればまだシカゴ・ホワイトソックスがシカゴ・ホワイトストッキングスだった頃、優勝のなかった試合の七回の攻撃の時に打ち上げてしまったフライが強風に運ばれてホームランになり、それが決め手となってホワイトストッキングスが優勝した所から”ラッキーセブン“と呼ばれるようになったという話です。しかし、西洋では元々“七”という数字は幸運の数字と考えられていたという説もあります。というのは、旧約聖書の創世記にて神が世界を作り最初に休んだのが七日目だからだそうです。

しかし、この“7”という数字の重要性は何も西洋思想に限った話ではありません。

四月八日の「花まつり」はお釈迦さまのお誕生日をお祝いするものです。お釈迦さまは釈迦族の王子として生まれ、後に出家され、悟りを開かれたわけですが、伝承によればお釈迦さまはお生まれになってすぐに七歩歩まれて「天上天下唯我独尊」と言われたそうです。

お釈迦さまがお生まれになった頃、インドの主流な教えというのはバラモン教（ヴェーダの宗教）でした。バラモン教の特徴としては“カースト制度”が挙げられます。カーストとは主にバラモン（司祭）、クシャトリア（戦士・王族）、ヴァイシャ（庶民）、シュードラ（奴隷）の四つに分けられており、どれだけ努力しても他の身分になる事や他の身分同士の結婚は許されず、奴隷の家系に生まれれば一生奴隷として過ごさねばならぬ非常に理不尽なものでした。

さて、お釈迦さまが生まれてすぐに七歩歩まれたという伝承ですが、真偽はさておき“七”という数字に込められた思いというのはどういったことだったのでしょうか？

仏教には「六道」という迷いあるものが輪廻するという「天、人間、修羅、畜生、餓鬼、地獄」の六つの世界があると言われています。この六つの世界は死後の世界の話ではなく自分の心の状態を示しており、この様な「迷いの世界」における私達であるから苦しむのだと解釈されています。

大谷大学の小川一乗先生のお話によると、私達人間は自分の思うように生きるのが幸せであり、それぞれの人間が思うように生きようとすることによって形成される迷いの闇を「人知の闇」と言うそうです。

お釈迦さまは悟りを開かれた後に「不死の教えを獲得した」と最初のお説法「初転法輪」で宣言されました。この「不死の教え」というのは「縁起の教えによって、輪廻の世界に転生する死から解放された」という意味です。この「縁起の教え」というのは「こ

の私が生きている」と思い込む「人知の闇」から、様々な縁起・因縁によって「生かされている私」という考えへの「目覚め」であります。お釈迦さまの第七歩目というのはこの「六道」を超えていく一歩、すなわち「仏道」こそが迷いの世界を離れる教えであるという宣言なのです。

さきほどカースト制度について触れましたが、階級制度に支配された社会において仏教が与えた影響は多大なものであったでしょう。お釈迦さまが釈迦族の国へ帰国した際に六人（七人とも）の王子達がお釈迦さまのお弟子になろうとしておりましたが、真っ先にお釈迦さまのお弟子となったのはシュードラ（奴隷）出身のウパーリでした。お釈迦さまは王子達に、「先に出家した者を順番に敬い、礼拝するように。」と命じられました。王子達は出家前の身分で言えば、シュードラであったウパーリよりも上の身分でありましたが、出家をしたのがウパーリの方が先であった為にウパーリに礼拝し、末席に連なると言われています。これはカースト制度に縛られていた生活では絶対に有り得なかったことです。ウパーリにとっては仏教という教えに出会えたこと、お釈迦さまに出会えたことが何と喜ばしいことであったか想像も尽きません。伝承によるお釈迦さまの第七歩。その第七歩目である「仏道」はまさに世界を変えた一歩であったでしょう。ちなみにウパーリはその後「持律第一」と呼ばれ、戒律を大切にし、釈迦教団の中心人物となっていきました。

さて、話を“ラッキーセブン”に戻しましょう。私にとって“ラッキーセブン”というのは野球の話でも旧約聖書の話でもなく、仏教の話です。私が勤めておりましたフローリン仏教会での法話でもお話したのですが、私はアメリカに来てすぐに8キロほど太りました。そこから6kg落とし、また4kg太り、そしてまた3kg落とし・・・と行ったり来たりを繰り返しております。

どれだけ太ろうとも気にはなりませんでしたが、ジーンズやスーツを着られなくなるのが大変です。未だに日本を出発する際に作ったスーツ、日本で履けていたジーンズを着れたことがありません・・・またそのスーツやジーンズを着られるようにと運動をしたり、お酒を控えたりと努力はしているのですが、どんなに体に良いとわかっておっても続けられぬのが私です。結局は新しいジーンズやスーツを買ってしまい、楽な方向へと逃げてしまうわけです。

私達、少なくとも私は、どんなに善い行いをしようと思っても、結局は楽をしたいという欲望から逃れることが出来ません。私はそれが人間の真の姿だと思います。このような人間は、自分の力では欲望の迷いの世界からは抜け出せないのです。では、お釈迦さまは「こんな奴は放っておけ」とおっしゃったかというところではありません。私のような人間には私のような人間の為の教えを説いてくださいました。

仏教というのは平等と慈悲の教えであります。もう数年前にお浄土へと還られた深川倫雄和上のお話の中に「阿弥陀さまが変わってくださる」というお話がありました。仏教の教えに自分を変えてでも合わせろ、というのでは愛の無い教えになってしまいます。

自分を変えることのできぬ私というのを阿弥陀さまはお見通しで、私自身が無理をして
仏法に合わせるのではなく、私の為に仏法を阿弥陀さまが合わせてくださり、それをお
釈迦さまが私達にお伝え下さったのです。

この様な教えに出会えたのはまさに幸運なことで非常に喜ばしいことです。これはお
釈迦さまが六道を超えていく第七歩目という「仏道」を説いて下さったからに他ありま
せん。私はこれこそ仏教徒にとっての“ラッキーセブン”ではないかと感じさせていた
だっている次第です。有り難いことですね。

合掌

<四月の予定>

十四日：四月祥月法要

二一日：朝のお勤め 十時より *お勤め後日本語のお話

二八日：春のフードバザー (お勤めはございません)

オンラインオーダー：<https://squareup.com/store/oregon-buddhist-temple>

<五月の予定>

五日：朝のお勤め

十二日：五月祥月法要

十九日：降誕会(親鸞聖人のお誕生日)法要 *お勤め後日本語のお話

二六日：朝のお勤め 十時より

皆様お誘いあわせの上お参りください。

それでは、また来月に。

文責・菅原祐軌

